

社会科の窓 VOL 13

令和3年12月20日
京都市立稲荷小学校 校長 吉山 茂樹

～これからの自動車づくり（5年）PART 2～



グループごとに発表→交流しました



• 車体は、がんじょうな方がいいの？
• それともフワフワで雲のような方がいいの？



自動運転にかかわって

- 危険だと音や音声で知らせてくれる。
- 危険だと自動で止まってくれたり、よけてくれたりする。
- お酒をのんだら、センサーが働く。
- AIで完全に自動運転してくれる。

プロジェクトチームごとに、とてもすばらしいアイデアが出されました。そこで、この日は、自動車販売会社の方に来ていただき、子どもたちの意見を踏まえこの会社の安全な取組のお話をさせていただきました。



私たちの会社では、安全に走行するために、エンジンの位置を低くしたり、4つのタイヤが動いたりするなど基本性能をみがいています。



みなさんが、出してもらった意見で、事故が起こる前に音で知らせ、自動ブレーキがかかります。スピードが出ていても、暗闇でも大丈夫です。



ふわふわで、人を守るという意見がありました。ぶつかるとエアバックが出てきて、乗っている人を衝撃から守ってくれます。

このように、自動車会社の方からお話を聴き、映像を見せてもらうことで、いかに安全に対する取組に力を入れているのかが分かりました。そして、2030年には、交通死亡事故0（ゼロ）を目指しておられることも子どもたちの心に残りました。

最後に、子どもたちのふりかえりから抜粋します。

- 車についてよく分かりました。エンジンなど、ふだん乗っていて見えないところまでたくさんの工夫があって、すごいなと思いました。・・・(途中略) 命を守るためのクルマづくり、事故を起こしにくいクルマを作るのがすごいなと思いました。「2030年 死亡事故ゼロ」を目指すのもすごいなと思いました。
- 自動車会社の方は、「人の命を守りたい」というおもいで、どんどん安全な自動車を進化させ、レベルアップしている。人の命が守られるため、エンジンの位置や自動ブレーキなどの工夫がされている。そして「2030年に交通死亡事故ゼロ」にするというのを目指しておられることが分かった。
- 自動車会社の方に実際に来てもらって、今の車が自分の予想以上に進歩しているのが分かった。「アイサイト」という自動ブレーキなどいろいろなものが搭載されており、僕も早く乗ってみたいなと思いました。あと10年、20年、30年たったら、夢のような技術があるかもしれないので楽しみです。

* お世話になりました関係のみなさま、ありがとうございました。